

第 65 回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

令和 7 年 7 月 24 日（木）15:00～17:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

（1）委員

鈴木部会長、片岡部会長代理、青木委員、石井満委員、井筒委員、遠藤委員、佐藤委員（オンライン）、白坂委員、中須賀委員（オンライン）

（2）事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 風木局長、渡邊審議官、西野参事官、猪俣参事官、樋口参事官、三上参事官、長谷参事官、早川企画官

（3）関係省庁

内閣衛星情報センター 田代主査
外務省総合外交政策局 有元主査
文部科学省研究開発局 小島専門職
経済産業省製造産業局 高濱課長
防衛省防衛政策局 高橋参事官

4. 議事要旨

（1）議題 1 「GE0INT2025 への参加結果」について、内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。

○ GE0INT の分野において、衛星を保有していない企業が AI によるデータ解析により大きな注目を集めるなど、産業再編・分業化が進んでいる。こうした傾向は、今後もますます加速することが予想される。

○ 電気推進による VLE0 からの観測は大きなニーズがあるものの、JAXA の SLATS は研究開発だけで終わった。今、SLATS の成果を分析した米企業が商業化に成功している現状がある。この教訓は、今後の産業育成の方向性を考える上で生かしていかなければならない。

（2）議題 2 「第 8 回プラハ宇宙安全保障会議への参加結果」について、内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。

○ 中国の人工衛星に係る技術力や製造能力が向上する中、様々な脅威、特に RP0 衛星への対策が重要になってくるのではないか。

（3）議題 3 「国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）への参加結果」について、内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。

○ 宇宙政策担当大臣が COPUOS に出席し、我が国の取組を発信するとともに宇宙交通管理の国

際的なルール作りをリードしていくというメッセージを打ち出したことは、日本のプレゼンスを高める上で非常に大きな価値があったのではないか。

(4) 議題4「その他」について、防衛省から宇宙領域防衛指針の内容について説明があり、次のような議論があった。

- 非常に画期的な文書であり、防衛省がこのような指針を策定することは我が国の宇宙産業を発展させる上でも大きな一歩となるだろう。
- 自衛隊による我が国の衛星防護について、特にグレーゾーンの事態などにおいてどのような権限に基づき防護するのか検討が必要ではないか。
- 多層的かつ抗たん性ある通信について、欧州との協力なども含め、どのように実現していくか具体化することが必要ではないか。
- 防衛省が予見性のあるニーズを示すことにより民間での技術開発が進展し、さらにはその技術が商業面でも使用されることで経済成長につながるといった好循環を生み出すことが重要ではないか。
- 我が国の宇宙利用を確保する上では、衛星というプロパティを守るのか、あるいは衛星を利用したサービスそのものを守るのかといった論点での整理が必要ではないか。特にサービスを守る場合では、何をどのように防護するのか難しい問題になる。

以上